

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

人間尊重の教育を基盤に自ら学び、自ら考え、主体的に判断して生きていくことのできる、心身ともに健康で、心豊かな、たくましい児童を育成する。

【1】明るく元気な子ども 【2】よく考え学習する子ども 【3】心豊かで思いやりのある子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「元気いっぱい 夢いっぱい 笑顔あふれる西が岡」を目ざした学校づくり

教育目標の達成を目指し、**子どもの自主性を育て、希望に満ちた明るく、楽しい学校づくり**をするために、**全職員が和と協力、熱意、そして人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育**に取り組み、活力に満ちた特色ある学校経営を推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 一人一人のよさを認め、居がいのある学校・学級づくり、**自主性を育てる教育活動の展開**に努める。
(学級経営の充実)
- (2) 授業の充実と学習習慣の定着を図り、**学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、自ら学ぶ態度の育成と基礎・基本の確実な定着**に努める。
(学習指導の充実)
- (3) ○情操豊かな教育環境と道徳教育の充実を図り、「生命や人権を大切に作る心」「思いやりの心」を育み、心豊かでたくましい子どもの育成に努める。
(心の教育の推進)
- (4) 全教職員の共通理解のもと、**児童との信頼関係を深め、日常の指導と家庭との連携を通して、規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立**に努める。
(児童指導の充実)
- (5) **進んで運動に親しむ体育指導と、健やかな体を育む食育・保健指導の充実**を図り、健康・体力の向上に努める。
(体力の向上と保健安全教育・食育の充実)
- (6) ○学校園としてカリキュラムを見直し学習や活動の交流を図り、小中一貫教育を推進する。
(小中一貫教育の推進)
- (7) 常に**自己の資質向上に努め**、子どもや保護者から信頼される教職員集団を目指す。
(教職員の資質の向上)
- (8) 家庭や地域との連携と情報発信の充実に努め、地域とともにある学校づくりの推進に努める。
(家庭・地域との連携・地域とともにある学校づくり)

【宝木地域学校園教育ビジョン】 『「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成をめざします』

- 豊かな心の育成
- ・ 規範意識の育成
- ・ 生命を尊重し相手を思いやる態度の育成
- ・ 自然、文化、芸術に親しむ感性の育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
体験活動や道徳教育を通して豊かな心と自主性を育み、授業の充実を図り学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。
- (2) 学習指導
分かる授業を展開し学習意欲の向上に努め、家庭学習の習慣化を図り、発達段階に応じた学習の定着に努める。
- (3) 児童生徒指導
○道徳教育や学級経営の充実を図り、「明るいあいさつ」「正しい言葉遣い」「決まりを守る態度」の育成を具体的な活動を通して推進する。
- (4) 健康（保健安全・食育）・体力
体育・保健・食育の指導の連携を図り、**健康・体力の向上や運動技能の習得に進んで取り組む児童の育成**に努める。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
教育 全 体 の 状 況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです」→児童の肯定的回答90%以上	① 学校行事に児童が自主的・主体的に取り組む場を設定し、適切な指導・支援・助言をすることにより、児童の自己肯定感を高める。 ② 児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。	B	【達成状況】 90.4 達成 ・学校行事等に児童の取り組む場を設定し、指導できた。 ・全職員共通理解のもと「分かる授業」の推進に努めた。 【次年度の方針】 ・児童会活動の更なる活性化を図り、児童の主体性を高めることで、達成感や自己肯定感を高めていく。 ・今年度の児童のつまずきの状況を分析検討し、次年度の学校課題研究に取り入れていく。
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育にあたっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	① 「分かる・できる」授業づくりのために導入や指導方法を工夫する。 ② 学習の進み具合を確認、よさを認めた言葉かけやつまずきにに応じた一人一人への支援を工夫し、個別支援の充実を図る。 ③ 朝の学習の計画的・効果的な活用に努める。 ・担任外の学級支援 ・木曜日・金曜日に国語・算数の基礎的・基本的な内容を繰り返し学習させる ④ 具体的な学習の取組の状況を保護者や地域に発信し理解を深める。 ・チャレンジウィークの実施 ・学びの広場の発信 ・西が岡小「家庭学習のすすめ」の配付 ・学年学級懇談会を活用した保護者への理解の促進	B	【達成状況】 98.3 達成 ・「全職員が熱心に教育にあたっている」については肯定的回答が98%以上になっている。 【次年度の方針】 ・全職員がさらに情報交換を密にし、一人一人の良さやつまずきにに応じたきめの細かい支援を行う。 ・授業参観や学校公開等を通じて、保護者や地域に児童の活躍を見てもらうとともに、その時々の子どもの課題を伝え協力を求めている。

A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業と生活のきまりを守って生活している」→児童の肯定的回答80%以上	① 全職員共通理解のもと、朝会・全校集合で全児童に話をしたり、各学級において指導したりする。 ・5分間休みの過ごし方 ・授業の始まりの時刻 ・教師が率先して早めに動く ② 「よい子の一日」の周知徹底を図る。 ・廊下の歩行（意識づけの工夫） ・終業のあいさつと次時の準備 ・遊び方の共通理解 ・清掃中、清掃後の指導の徹底 ③ 生活目標を活用し、スモールステップで目標をアップさせるようにする。 ・良かった点を朝会で賞賛する。（週番）	【達成状況】 76.6 課題 ・教師、保護者、児童ともにきまりやマナーに対する規範意識の低下を感じている。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーに対する意識の定着を図られるよう、各学級ごとに指導を徹底する。 ・児童指導主任や生活当番担当教師、また代表委員児童が放送等で呼びかける。 ・月ごとの指導の重点を決め、全職員が同歩調で指導する。
A4 教職員は、分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員の肯定的回答90%以上	① 全職員共通理解のもと学校の課題研究を進める。 ・算数科の授業研究 ② 授業研究を行い、指導方法の工夫改善や指導力の向上を図り、きめ細かな指導を実施する。 ・一人一授業公開 ・板書チェックリスト・授業チェックリストの活用	【達成状況】 95.8 達成 ・「分かる・できる」授業づくりのため、教職員が共通理解のもと、ICTを活用したり、導入の工夫をしたり、一人一授業を実施したりして指導方法を工夫することができた。 【次年度の方針】 ・要請訪問・一人一授業などは保護者にも「学びの広場」などで配付して、学校でどのような研究をしているかを知ってもらう機会にする。 ・ノートやワークテスト、プリント等に励ましやアドバイスのコメント等を入れ、一人一人の意欲を高める。
A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生はいじめが許されないことを熱心に指導してくれる」→児童の肯定的回答90%以上	① 教育相談を年間2回実施し、児童の実態の把握と早期発見に努める。 ② あいさつ運動を実施し、良好な人間関係づくりを進める。 ③ 人権週間、いじめゼロ月間、いじめゼロ集会を実施し、意識の啓発に努める。 ・授業参観の時にビデオやDVDで紹介する。 ・いじめゼロ集会を保護者にも公開する。 ④ 学校の取り組みを、学校便りやHPなどで地域や保護者に積極的に発信する。	【達成状況】 97.6 達成 Ⓐ 66.8 ・教職員と児童は達成されたが、保護者・地域住民には、取り組みの様子が伝わっていない。 【次年度の方針】 ・ホームページや学校便り・長期休み前の生活便りを通して、いじめ防止に関する資料や学校での取り組みの様子を発信する。 ・いじめゼロ集会を全校でのいじめ防止運動に盛り上げる。 ・いじめゼロ集会の公開について引き続き保護者に通知する。

学校運営の状況	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 各行事終了後や年度末にアンケートを実施し、次に生かされたか。→その都度実施	① 行事の終了後や年度末にアンケートを実施し、可能なことはすぐに改善したり、次回・次年度に生かしたりする。 ② 行事の際に、タイミングをとらえて適切に保護者や地域へ情報を発信するとともに、アンケートを実施して生かせるようにする。	B 【達成状況】 92.0 達成 ・各行事終了後には教職員にはアンケートを実施し、改善点を次に生かすことができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、行事実施後のアンケート等により、改善点を検討していく。
	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信している」→保護者の肯定的回答80%以上	① 「オープンスクール」を含め年間に4回以上学校公開を実施する。 ・集会や音楽朝会の公開 ② 積極的に、保護者や地域へ学校便り・ホームページ等で情報を発信する。 ・学校便り、学年便り：月1回以上発行 ・HPの更新：月1回以上	B 【達成状況】 96.1 達成 ・行事や授業、集会、親子活動等、月に1回は保護者来校の機会を作った。 ・毎月の学校便りや、学年便り等により情報を発信した。 【次年度の方針】 ・様々な場面で保護者等のボランティアを積極的に導入し、開かれた学校作りを行う。 ・引き続き、行事や親子ふれあい学習、集会等で積極的に学校公開を実施していく。
	A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→保護者の肯定的回答80%以上	① 行政や企業と連携した授業を実施する。(社会科、総合的な学習の時間、学級活動、各種体験活動等) ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」と連携して、学校運営の充実を図る。 ・安全ボランティア ・放課後子ども教室 ・体験活動 ③ 情報は積極的に分かりやすく、家庭・地域へ発信する。	A 【達成状況】 91.9 達成 ・行政や企業との連携により意欲的に学習に取り組む姿が見られた。 ・地域協議会と連携して実施したふるさと学習や農業体験では、多くのボランティアの参加があった。 【次年度の方針】 ・企業との連携の授業などは、実施計画書を保護者にも配付し、参観可能であれば参観を呼びかける。 ・全学年で、外部との連携を図った授業を実施する。
	A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、学習しやすい環境である」→保護者の肯定的回答80%以上	① 清掃指導の充実(西岡タイム)と施設設備の維持管理を行う。 ・清掃強化週間を実施 ・短縮日課の際の自主清掃 ② 校内緑化(花はなタイム・教材園)を推進し、学習にふさわしいよりよい環境づくりに努める。	B 【達成状況】 91.2 達成 ・縦割り班を中心によく清掃されていた。 【次年度の方針】 ・引き続き学習にふさわしい環境づくりに努める。 ・清掃指導の年間指導計画を作成し、指導を充実させる。 ・年度末に全学年での大掃除の時間を教育課程上に位置付ける。

教育活動の状況	生	A10 児童は進んであいさつをしている。 【数値指標】 「時と場に応じたあいさつ」→児童の肯定的回答 90% 以上	① あいさつ強化週間や中学校との合同あいさつ運動を継続しさらに意識化を図る。 ・代表委員によるあいさつ運動の実施 ・あいさつ標語募集 ② あいさつがよくできている児童を生かし、意識化を図り集団として伸ばす。 ・「あいさつ大賞」の継続 ③ 学校便りや懇談会で保護者や地域に協力を呼びかける。 ・家庭での習慣化 ④ 各学級で丁寧語によるあいさつを実行する。	B	【達成状況】 88.7 課題 保 69.9 地 60.0 ・児童の意識と、地域や保護者の意識に隔たりが大きく、地域や家庭でのあいさつがしっかりできていない様子がうかがえる。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の活性化を図り、全児童が積極的に運動に参加できるようにする。 ・地域に向けたあいさつについて、学年に応じて、学級単位で指導を継続する。 ・「あいさつ大賞」の推薦基準に、家庭や地域でのあいさつを含め、学校内外でのあいさつの充実を図る。 ・家庭でのあいさつ強化を啓発し、保護者や地域を巻き込んだあいさつ運動を展開する。
	活	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「時と場に応じた言葉づかい」→児童の肯定的回答の 85% 以上	① 毎日の授業・生活において、丁寧な言葉を使う指導を行う。 ・「～さん」と呼ぶ指導 ・他の教室や職員室の入り方の指導 ② 学年便り・学校便りや懇談会等で、家庭や地域に協力を呼びかける。 ③ 教室に発表の仕方の例を掲示し、正しい言葉による話し方の指導をする。	B	【達成状況】 78.2 課題 保 63.8 地 46.7 ・正しい言葉づかいについての意識は高まってきたが、時と場に応じた言葉づかいが十分にできていない。 ・家庭や地域での正しい言葉づかいが身についていない。 【次年度の方針】 ・会話科の言葉の時間の充実を図り、目上の人への話し方など、具体的な指導を実施し、言語による表現力を高める。 ・心の教育を通して心の耕しを図り、相手を思いやる言葉づかいができるようにする。 ・目上の人に対する言葉遣いや正しい敬語の使い方ができるよう国語科を中心に指導する。

	B2 教職員は、心の教育と特別活動の推進に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケートの「心の教育と特別活動の推進に取り組んでいる」→教職員の肯定的回答 90%以上	① 豊かな感性の育成を目指した読書活動を推進する。 ・読み聞かせ・朝の読書の充実 ・読書週間の活性化 ・図書館司書による選書の支援 ・団体貸出用図書を活用 ・月曜朝の図書貸し出しの実施 ・読書する時間の確保と指導の工夫 ・読書ファイル、図書バックの活用 ③ 道徳は、保護者参加など工夫して授業参観等で公開する。 ④ 小中連携した「宮っ子心の教育の」推進 ⑤ 他機関と連携して「命の授業」や「人権の授業」を実施し、人権感覚を高めていくようにする。 ⑥ 「わたしたちの道徳」を年計との関連を図って積極的に活用する。	B 【達成状況】 96.0 達成 ・読書週間や学校司書・読み聞かせボランティア・にじいろの会などとの連携により、読書活動を積極的に推進することができた。 【次年度の方針】 ・一人一人の読書の質の向上を図る。 ・土曜日・日曜日・長期の休みなどの読書時間の確保について、保護者へ啓発していく。 ・「命の授業」や「人権の授業」を保護者に公開したり、親子学習にあてたりして、保護者への啓発を行う。
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「積極的に運動している」→児童の肯定的回答の 85%以上	① 児童会活動・学校行事・元気っ子体力チェックなどにおいて、縦割り班活動の運動を積極的に行う。 ② 積極的な活動にするために、児童の意見を生かし、活動内容を工夫する。	B 【達成状況】 90.1 達成 ・昨年同様、西岡タイムでの外遊びや、体力作り月間を中心として、多くの児童が運動していた。 【次年度の方針】 ・引き続き、西岡タイムを活用し、縦割り班や学級の仲間と一緒に運動できるよう、工夫する。 ・体育の授業と関連させて、児童が自主的に運動できるよう、工夫する。
健康・体力	A13 児童は、栄養バランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「好き嫌いなく給食（食事）を食べている」→保護者の肯定的回答 80%以上	① ランチルームで食育の話をしたり、生活チェックシートを活用して個別指導（担任・養護教諭・栄養士等）をすすめたりする。 ② 「おべんとうの日」には、学年に応じて栄養のバランスを配慮した献立が立てられるようにワークシート等を活用して支援する。 ③ 保護者から募集した好き嫌い克服メニューを献立に取り入れ、家庭への啓発を図る。 ④ 栄養バランスに関する話や家庭で実践できるレシピを給食便りで発信するとともに、お弁当の計画づくりや夏休みのレシピづくりなど家庭で実践する場をつくる。 ⑥ 「親学」に「食育」をとり入れる。	B 【達成状況】 71.6 課題 ・目標数値を 8.4%下回ったが、昨年度と比較すると 2.7%上回っており、改善傾向が見られる。 【次年度の方針】 ・引き続き、課題克服に向けて、好き嫌いの多い食材を使ったメニューのレシピを募集し、紹介する。 ・苦手な児童が多い食材を、人気の高いメニューに、取り入れる。実施の際は、アレルギーに十分気をつける。 ・旬の食材を用いて、安くて簡単に作れる献立を、給食便りで紹介する。

学 習	B1 児童は、交通のきまりを守って登校している。 【数値指標】 「きまりを守って登校している」→児童の肯定的回答 90%以上	① 月1度の登校指導や一斉下校の際に、目標を決めて交通指導を実施し、登校班への個別支援をする。 ② 交通安全教室等で、交通安全について徹底を図る。 ② 安全ボランティアを募り、家庭・地域と協力して、登下校の見守りをする。	B	【達成状況】 95.8 達成 ・数値目標は達成したものの、回答と実態とで達成状況が乖離している。引き続き、児童の安全な行動の実践が課題となっている。 【次年度の方針】 ・交通安全について、児童への啓発をより充実させる。各学年毎、学年便り等を活用する。
	B4 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導をしている。 【数値指標】 「体力チェック等を実施し、個別に指導している」→教職員の肯定的回答 90%以上	① 体力チェックや生活アンケートを実施し、個別指導に生かす。 ・外遊びの奨励と日常的な運動による体力づくり ・歯磨き指導 ・姿勢の改善と視力向上に関する意識づけ	B	【達成状況】 95.8 達成 ・数値目標を達成しており、職員の意識が高いことが、児童の体力向上につながっている。 ・保健委員会による歯ブラシチェック、歯磨き指導、目の体操紹介を実施した。児童から児童への伝達を通して、意識を高めた。 【次年度の方針】 ・引き続き、体力づくりを実施していく。また、健康に関する児童の意識は委員会を活用し、伝達していく。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、分かりやすく発表するなど、積極的に学習している」→児童の肯定的回答 85%以上	① 様々な学習形態を積極的に取り入れた授業を工夫する。 ② 「話し方、聞き方」の掲示物を作成し活用を図り、分かりやすく発表する力を育てる。	A	【達成状況】 84.7 課題 ・授業では様々な学習形態を取り入れてきたが、学習に「進んで」取り組んでいるまでには至っていない。 【次年度の方針】 ・「話し方・聞き方」の基本を作成し、国語ノートなどに張り付けて活用する。 ・話合いの仕方の基本をVTRを活用するなどして発達段階に応じ指導する。 ・その日に学習したことを話したり、自主学習ノートにまとめたりできるよう、継続指導する。 ・自主学習がうまくできない児童には、自主学習ノートの基本パターンを作るなど、具体的な支援策を考え全校体制で実施する。
	A15 児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「授業中、落ち着いて学習している」→児童の肯定的回答 85%以上	① 学習の決まりについて学校全体で共通の取り組みを推進する。 ・授業開始や終了時の時刻の遵守 ・あいさつを遵守する。 ・正しい言葉遣いの奨励 ② その日に学習したことを話したり、自主学習ノートにまとめたりできるよう、継続指導する。	A	【達成状況】 79.3 課題 保 73.9 地 69.2 ・「落ち着いて」の状況をどのようにとらえるか再確認が必要。 【次年度の方針】 ・「授業開始や終了」「あいさつ」「言葉遣い」についてさらにきめの細かな指導が必要。 ・「西が岡小よい子のきまり」学習についてもう一度確認する。

	B5 児童は、宿題や習ったことを復習するなど、すすんで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「授業で習ったことを復習するなど自主的な学習に取り組んでいる」→児童の肯定的回答80%以上	① 西が岡小「家庭学習のすすめ」を活用し、学年に応じた家庭学習の習慣化を図る。 ・音読と発達の段階や個人差に応じた宿題の徹底 ・学年に応じた自主学習の進め方の指導 ・家庭学習の時間・やり方・内容の提示 ・手本となるような自主学習ノートの紹介 ・学級懇談等での保護者への啓発	【達成状況】 81.9 達成 保67.8 ・児童の肯定的回答率は高いが、「進んで」との考え方があいまいなので、実態に即していない面もある。 ・「宿題」などはある一部の児童を除いてはきちんと取り組んでいるが、それ以上の家庭学習には課題が多い。 【次年度の方針】 ・「進んで」学習に取り組む状態とはどのような状態なのかの基準を示し、児童・保護者・教職員が共通認識のもと理解して指導する。 ・学年学級懇談などで子どもの自主学習ノートを回覧するなどして保護者の理解を深める。 ・自主学習への取り組みについての学校の方針や具体的な内容について、学年懇談等を通じて保護者にも知らせる。
本校の特色・課題等	B3 縦割り班活動を積極的に行っている。 【数値指標】 教職員アンケートの「縦割り班活動を積極的に行っている。」→教職員の肯定的な回答90%以上	① 異学年の交流活動を上級生がリーダーになり主体的に行う。 (花はなタイム・遊友タイム・清掃活動・児童会集会活動等) ② 班対抗のゲームや活動を取り入れて、活動に変化をもたらすように工夫する。(遊友タイム、運動会) ③ 幼保小中連携の充実を図る。	【達成状況】 96.0 達成 ・あらゆる場面において上級生が活躍できた。 ・運動会や西岡タイムに縦割り班で行う種目・ゲームを取り入れたが児童間の協力が見られ効果的だった。 【次年度の方針】 ・継続的に高学年がリーダーとなる活動の場を推奨する。
	B6 地域人材を活用した教育活動を推進している。 【数値指標】 教師アンケートの「地域人材を活用した教育活動の推進」→教師の肯定的な回答90%以上	① 出前授業や地域協議会等を活用し、さらに充実した体験活動を推進する。 (ふるさと教室、読み語り、学習会、農業体験、栽培活動、ミシンボランティアなど) ② 地域コーディネーターを活用して、活動内容の事前打ち合わせを行い、充実を図る。	【達成状況】 96.0 達成 ・地域協議会や保護者等と連携し、充実した体験活動ができた。 【次年度の方針】 ・PTA学年学級委員・地域コーディネーターを活用して、生活科・総合的な学習・家庭科などの学習の支援をさらに充実させる。

〔総合的な評価〕

- ・「授業や生活の決まりやマナー」については、教職員・保護者・地域住民・児童ともに、肯定的割合が低下している。次年度、もう一度全職員で指導を徹底していきたい。
- ・「教職員の指導」については、児童の肯定的割合が毎年高まっている。引き続き、児童の良さを認め自己肯定感を高めていきたい。
- ・「いじめ対策」については、児童・教職員の肯定的割合は高いが、依然として保護者・地域住民との意識の差があり、学校の具体的な取組や児童の姿を積極的に発信して、地域・保護者と協力して取り組んでいきたい。
- ・「あいさつや言葉づかい」については、児童の肯定的回答の割合は高いが、地域や保護者においては依然として低い傾向にある。家庭や地域においてもあいさつや正しい言葉づかいができるよう、保護者や地域住民と協力して改善していきたい。
- ・「家庭学習への取り組み」について児童に意識付けは図られているが、個人差も見られる。引き続き家庭に協力を求めるとともに、各学級で意欲付けを図っていきたい。

6 学校関係者評価

- ・親の思いと学校の思いのずれが大きくなっている。いじめや携帯電話等，いろいろな親学講座を開いても，関心の高い親しか参加しないことが多い。全保護者が参加する体制で，専門家等の講座を開催したらどうか。
- ・学習では，すぐにあきらめてしまったり，早く終わらせることだけを考えていたりする児童も見られる。学習の達成感を味わえるよう，地域の学習会でも丁寧に支援したい。
- ・登下校の交通ルールやあいさつなどは，学校だけでなく，親や地域が一体となって指導していくことが必要。
- ・地域の子どもたちのために，引き続き学校と連携していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・学校・家庭・地域が一層連携して，言葉遣いやあいさつ，交通ルールの順守など，児童の健全な育成に努めていく。
- ・いじめ対策等，日常的・重点的な児童指導について，より一層の情報発信や公開を実施し，地域や保護者とともに児童の豊かな心の醸成を図っていく。
- ・学習では，基礎基本の定着に向けて，教師の授業力向上に努めるとともに，望ましい学習態度の徹底や家庭学習の習慣化を図れるよう家庭と連携していく。